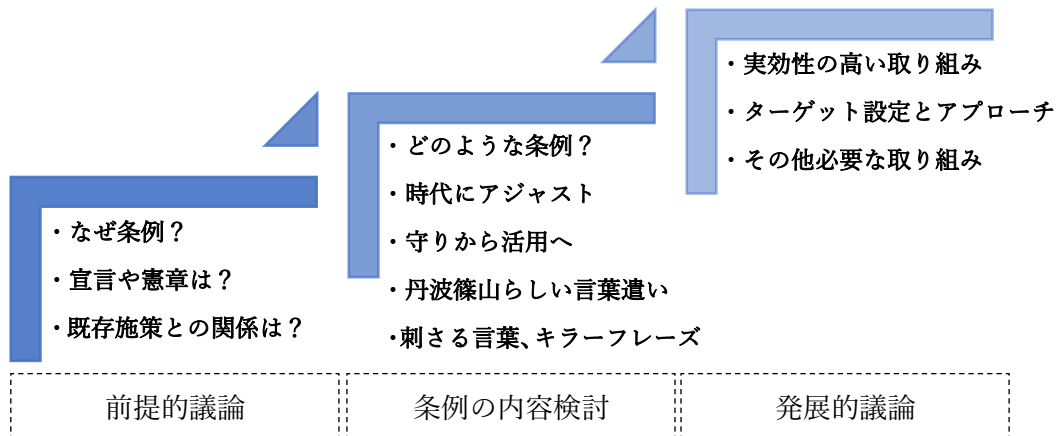


第2回丹波の森づくり推進検討委員会に係る資料

1. はじめに

前回の委員会では、丹波の森宣言等の経緯を振り返るとともに、認知に課題があることやその対応状況について、確認してきた。委員からは、県民意識調査の内容や啓発のターゲット設定等について質疑がありました。丹波の森宣言は地方創生の先駆けと評価を頂いている一方、条例化に関する意見が見受けられた。要約して列記すると、“なぜ条例を制定しようとするのか”、“既存の条例や構想等との関係性は”、“宣言や憲章でない理由は何か”等である。また、条例化を検討していくにしても“どのような条例をイメージしているのか” “丹波の森構想をベースにしつつ今の時代に合わせること”や“従来の守りから活用へ”、丹波篠山らしい言葉遣い、“ターゲットに効果的に刺さる言葉・キラーフレーズの必要性”等の指摘もあったほか、より具体的な事業活動を示すアクションプラン、実効性の高い取り組みについての言及もあり、これからの委員会における論点提起があった。これらについては、以降の委員会において、順次検討していきたいと考えているが、今回の委員会では、“なぜ条例化しようとするのか”等の“議論の前提となる点”を中心に検討していきたい。



【第1回検討委員会の意見整理】